

1. 基本情報

- (1) 国名：リベリア共和国（以下、「リベリア」という。）
- (2) プロジェクトサイト／対象地域名：モンセラード州モンロビア（人口約 150 万人）
- (3) 案件名：モンロビア首都圏ジャパン・フリーウェイ延伸整備計画
(The Project for Extension of Japan Freeway in Monrovia)
- (4) 計画の要約：本計画は、ジャパン・フリーウェイ西端とガブリエル・タッカー橋北端までの区間において、既存 4 車線（片側 2 車線）を改修することにより、対象区間の円滑かつ安全な道路交通の確保を図り、もってモンロビア首都圏を含みリベリア国内及び隣国の広域な人流・物流の活性化を通じた同国の経済社会開発に寄与することを目的とする。

2. 計画の背景と必要性**(1) 本計画を実施する外交的意義**

リベリアは西アフリカに位置し、日本との貿易額は西アフリカ諸国のなかでも高い水準にある。同国は主要な国際選挙において我が国を支持している等、我が国の基本的立場を理解・支持する友好国であり、同国との更なる協力関係の維持・強化は重要である。

我が国は同国に対し、これまでも道路支援事業を実施してきた実績があり（無償資金協力「モンロビア首都圏ソマリアドライブ復旧計画」（フェーズ 1：2013 年～、フェーズ 2：2016 年））、その完工に際して日本への謝意が込められて道路名称が「ソマリアドライブ」から「ジャパン・フリーウェイ」に改称された経緯がある。ウェア大統領からも、この道路プロジェクトは二カ国の強固なパートナーシップの証であり、日本はリベリアの重要なパートナーであることを述べられている。

本計画は、これまで我が国が支援してきた「ジャパン・フリーウェイ」に繋がる重要な道路区間の改修であり、本計画実施により我が国支援のビジビリティを更に高めるとともに、二国間関係強化にとって重要な案件となり得る。

(2) 当該国における運輸・交通セクターの開発の現状・課題及び本計画の位置付け

リベリアでは、長年の内戦の結果、首都圏の主要幹線道路の損壊・老朽化が深刻であり、さらに、2014 年に同国で発生したエボラウイルス感染症の影響もあり、未だ十分に経済インフラが整備されていない。同国の道路整備状況は西アフリカ諸国の中でも悪く、道路舗装率は約 6.2%（2018 年、CIA）、全天候道路は全道路の四分の一以下に留まっており、道路・橋梁などの基礎的インフラの不足は同国の経済開発にとって大きな制約となっている。リベリア政府は「国家開発 5 か年計画（2018-2023）」において、経済開発と雇用の促進を柱の一つとして掲げ、2023 年までに 517km の幹線道路、260km の都市道路を整備することを目標とし、輸送コストの削減、基礎的サービスへのアクセス改善等に取り組んでいる。首都モンロビアは年率約 4%で人口増加（2020 年、世界銀行）しており、北部・東部の住宅街が広がりを見せているものの、メシュラド湿地を挟んで南部に官庁やオフィス街、商業施設や病院・大学等の公共施設が集中しているため、3 ルートしかない南北縦断道路に交通

が集中している。

JICA が 2009 年に実施した開発調査「モンロビア都市施設復旧・復興整備マスタープラン策定調査」では、優先的に整備する道路として、メシュラド湿地を環状する都市 1 級道路を提案しており、我が国は無償資金協力「モンロビア首都圏ソマリアドライブ復旧計画」（フェーズ 1：2013 年-、フェーズ 2：2016 年-）を実施し、ジャパン・フリーウェイ（ソマリアドライブ）を整備した。世界銀行は 2011 年よりメシュラド湿地東側より第二都市のバルンガ、第三都市のカカタ、隣国ギニアに繋がるカカタ・ハイウェイ（246km）の整備を行っている。これにより、世界銀行は輸送コストが約 50%削減されたと試算している。

他方、世界銀行が実施した「Liberia Multimodal Transport Master Plan」（2017 年）では、ジャパン・フリーウェイの西端の交差点、国際港のフリーポートが隣接するエリアからガブリエル・タッカー橋の区間（1.9km）が、都市及び広域道路網の両面からボトルネックとして指摘されている。本区間は、3 か所の南北縦断道路のうち唯一市内中心部に直接接続するものであり、2009 年のマスタープランでも最も交通量が多い区間として指摘されている。加えて、ジャパン・フリーウェイが整備されたことでモンロビア市内中心部と東部を往来する車両の増加が見られており、重要度が高まっている。対象区間は海岸部に近い低地にあり、年間平均降雨量約 2,500mm（1991-2020 年の平均）が集中する 6 カ月間にも及ぶ雨期には、道路の冠水による交通渋滞の悪化と路面の更なる劣化が進行している。

本計画は、ジャパン・フリーウェイ及びカカタ・ハイウェイをモンロビア市内中心部と結ぶ扇の要となる区間を改修するものであり、モンロビア中心部とフリーポート、リベリア第 2 及び第 3 の都市であるバルンガやカカタ、さらにはギニア国境までの人流・物流の円滑化に資するものである。本計画は、リベリア政府の最優先課題として位置付けられており、第 7 回アフリカ開発会議（TICAD7）の首脳会談にて日本政府に対して支援の要請があったものである。

3. 計画概要

* 協力準備調査の結果変更されることがあります。

(1) 計画概要

① 計画内容

ア) 施設、機材等の内容：既存 4 車線（片側 2 車線）の嵩上（冠水改善策）・改修工事、排水施設を含む道路付帯施設一式

イ) コンサルティングサービス／ソフトコンポーネントの内容：詳細設計、入札補助、施工監理

② 期待される開発効果：浸水原因を含む渋滞解消による対象区間通過に要する時間の減少（渋滞時：20 分→5 分）、交通量の増加（年間交通量：47,700 台→60,000 台）、及び経済効果（現在と比較し年間 162 百万円）。排水施設整備による冠水及びそれに伴う舗装損傷の防止並びに維持管理コストの低減。国内輸送費の軽減、病院等公共施設へのアクセス改善。

③ 計画実施機関／実施体制：公共事業省（Ministry of Public Works）

他機関との連携・役割分担：モンロビア市から東側の幹線道路は世界銀行および中国が改修事業を実施中であり、本計画と併せて市内中心部と郊外や他都市間のアクセス向上、人・物の時間面・金額面での輸送コスト減少が見込まれる。本計画対象区間の北側

に位置する UN ドライブは、リベリア政府が自ら改修する計画である。ドイツ国際協力公社（GIZ）が 2008 年から 2024 年にかけて公共事業省の道路維持管理能力向上を支援中。

④ 運営／維持管理体制：設計・施工時は公共事業省建設局、運営維持管理は同省運営局が実施機関となる。2016 年には道路基金を設立し、道路・橋梁の維持管理を行っている。

(2) その他特記事項

環境社会配慮カテゴリ分類： B

ジェンダー分類： GI（ジェンダー主流化ニーズ調査・分析案件）

4. 過去の類似案件の教訓と本計画への適用

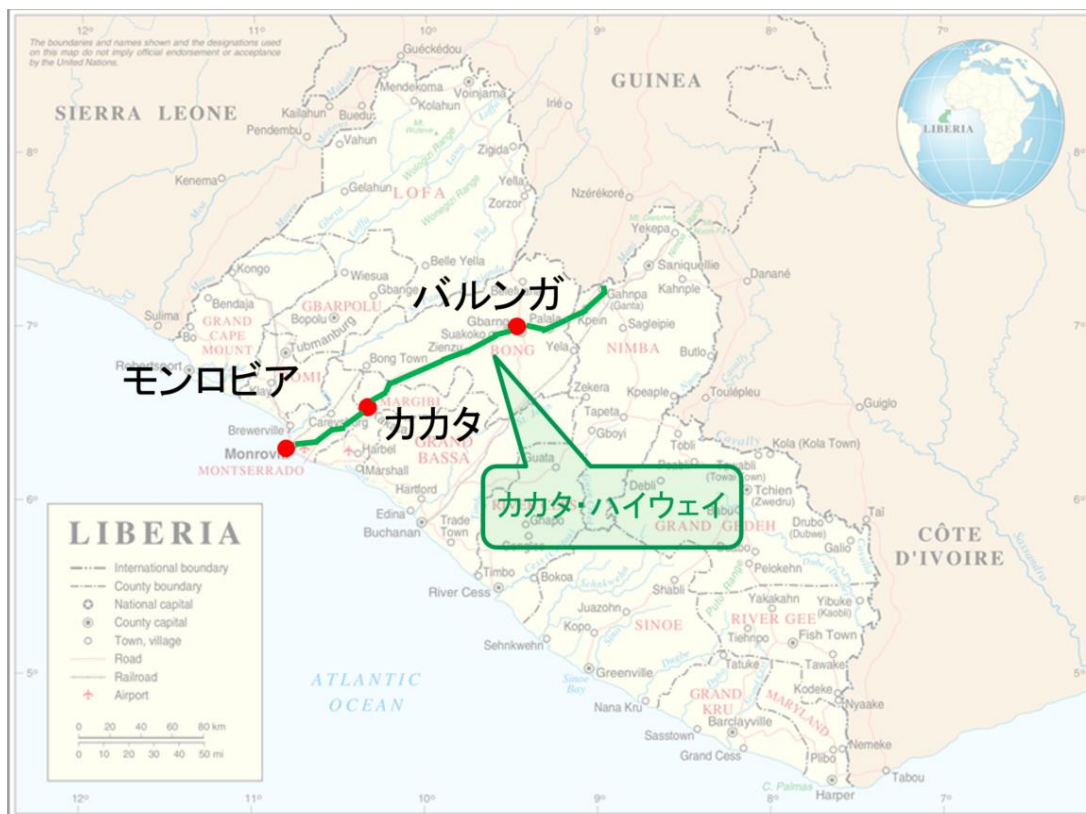
類似の道路整備事業において、雨期前には、実施機関が道路側溝に溜まったゴミを清掃していたが、周辺住民がペットボトル等のゴミを投棄するため、排水機能が損なわれる状態となっていた。このため、本計画では、側溝内に長期間滞水しないような設計等対策を検討するとともに、ソフトコンポーネント内に周辺住民に対する啓発活動を含める。また、道路側溝のごみの清掃頻度等、時期等について実施機関と十分に確認する。

以 上

[別添資料] モンロビア首都圏ジャパン・フリーウェイ延伸整備計画 地図

[別添資料] モンロビア首都圏ジャパン・フリーウェイ延伸整備計画 写真

モンロビア首都圏ジャパン・フリーウェイ延伸整備計画 地図







(出典 : Google Maps)

モンロビア首都圏ジャパン・フリーウェイ延伸整備計画 写真

